

「2020年代の総合物流施策大綱に関する有識者検討会」 における意見(道路関係)

第1回(7/16) 物流政策の現状と取組について

○有事への備えとしてリダンダンシーの問題にハードの側面から対応する必要がある。「新しい生活様式」に対応した荷捌きができる街をどのように構築していくのかといった点が論点となる。

第2回(9/11) 関係団体へのヒアリング

有識者からのプレゼンテーション①

○輸送の効率化推進のための施策の推進

(重要物流道路の機能強化、高速道路のミッシングリンクの解消、SA・PA等の駐車スペースの整備・拡充、SA・PAを活用した中継輸送の推進、ダブル連結トラックの展開、隊列走行・自動運転の推進、農産物輸送におけるパレット化の強力な推進、都心周辺のトラックポイントの整備促進等)

○トラック(単車)の車両総重量31トン車の開発のための勉強会の設置

○鉄道や港湾など物流の結節点における連結性の充実が重要。特に地方での各モードの連携性を高めるため、例えば、高性能・大型コンテナが取り扱える、基盤整備が必要。

○太平洋側での地震災害時に、特に、日本海側の主要港に至る物流ルートの確保、BCPにおける物流ルートの事前設定が必要。

第3回(9/17) 有識者からのプレゼンテーション②

○自動運転車の研究開発にあたっては、専用レーンの設置の有無で車両に求められる技術レベルが大きく変わる。

各トラックメーカーの車体から収集されるデータを統一することで、メーカーに関わらずトラックの動きが捕捉できるようになる。これらのデータをビッグデータ化し、求貨求車などの輸配送の効率化や自動運転や隊列走行の運行管理に活かせるよう取組を進めている。

第4回(10/5) 有識者からのプレゼンテーション③

○トラックドライバー不足への対応及び環境負荷の削減の観点から有効である車両総重量31トンの大型トラック(単車)の開発や、燃費向上や電動化に対応するためのバッテリー、パレットの軽量化に向けた検討が必要である。

第5回(11/6) 「有識者検討会提言骨子(案)」の検討 ※特に道路関係の発言なし

第6回(12/4) 「有識者検討会提言」に盛り込む事項の検討

第7回(12/22) 「有識者検討会提言」のとりまとめ